

現代中国語における日本動漫画由来の新語の受容状況

尹 美蓮

1 近現代における中日言語交流

借用語は単なる国境を越えた言語の伝播・交流だけでなく、時代や社会現象を反映する重要な産物でもある。中国と日本は古くからあらゆる領域において交流が盛んに行われ、とりわけ言語・文字において互いに絶えず影響し合ってきた。5世紀から6世紀にかけて中国の漢字が日本へ伝わり、日本語の形成に大いに影響を与えた。その後19世紀初期、中国は余儀なく門戸を開くこととなり、西洋文明と共に大量の西洋語が入って来た。当時の清朝政府は専門の翻訳機関を設け、西洋書籍の翻訳などを行った。これらの書物は後に日本へ入っていき、日本はこれらの対訳語を吸入しつつ、また独自の発展を遂げ、明治維新を機に大量に吸収した西洋語を翻訳した結果、数多くの和製漢語が誕生した¹。これらの和製漢語は清朝末期に来日した多くの中国人留学生により、中国へと広く伝わっていった²。それまでに中国から日本への一方的な文化輸出の局面は一変し、日本から中国へと変わった³。とりわけ人文社会科学の領域において日本語由来の借用語がもっとも多く見られる。1958年に高名凱・劉正焱が編纂した《現代汉语外来詞研究》(『現代中国語外来詞研究』)によると、1268語の借用語の中に日本語由来の語彙は459語で、その内哲学、政治、経済や文化方面のものが比較的高い比例を占めている⁴。しかし、日本語に由来する語彙に関してはまずは日本語から借用したこと自体を知らないまたは外来語として意識していないことがあるが、そのわけを知るには日本語由来の借用語の分類を詳しく見る必要がある。史有為(2000)は中国語における日本語からの外来語を、大きく次の3つのタイプに分類している。

(1)漢字の意味を使用した漢字詞

例：“社会(社会)”、“经济(経済)”、“文化(文化)”、“抽象(抽象)”、“哲学(哲学)”、“革命(革命)”、“教授(教授)”、“干部(幹部)”、“组合(組合)”、“借方(借方)”、“立场(立場)”、“浪人(浪人)”、“美术(美術)”、“花道(花道)”、“柔道(柔道)”、“俳句(俳句)”、“场合(場合)”、“腺(腺)”

(2)漢字の意味を使わず、形だけを借りた漢字詞

例：“寿司(寿司)”、“瓦斯(瓦斯)”

(3)日本語を中国語に音訳した詞

例：“卡拉OK(カラオケ)”、“榻榻米(タタミ)”、“欧巴桑(おばさん)”

上記の分類の中で、(2)漢字の意味を使わず形だけを借りた漢字詞と(3)日本語を中国語に音訳する詞は、そもそも中国語にはない語彙であるが、(1)の漢字の意味を使用した漢字詞の場合はその状況が複雑で、中には“社会、经济、文化”などのような中国

古典語を用いて外来概念に対応させたいいわゆる「回帰詞」もあれば、本来中国語には存在しない日本独自で造った“腺”のような日本製漢字と“抽象、哲学”のような日本製外来語もある。他に、中国語由来の語彙であっても、品詞性と意味にズレがあるもしくは異なるもの（例えば、我慢、退屈、挨拶、料理、勉強など）があり、中日同形語であるが、意味や意味構造がそれぞれ異なるもの（例えば、写真、洋行など）もある。このように日本語の中には一見中国語と全く変わらない語彙が多く存在するため、これらが中国語に借用されても、中国人に日本語由来の外来語であると意識されないことがしばしば起こる。

ところが、中国で1978年に改革開放の政策が実施されてからは、とりわけ2000年以降インターネットが急速に普及するにつれ、日本のアニメや漫画をはじめとするポップカルチャー由来の語彙が中国語の中で定着し、存在感を増しつつある。本稿ではこのような1980年代頃以降日本語から借用したものを統一して「新語」と呼ぶ⁵。日本のポップカルチャー由来の新語が一躍注目されることとなったのは、2010年11月10日に“给力(すごい、役に立つ、頑張る)”という言葉が《人民日報》より使われたことがきっかけである⁶。“给力”は日本のギャグ漫画家増田こうすけのテレビアニメ『ギャグマンガ日和』(2005)の中国語吹き替え版の第10話「西遊記～旅の終わり～」で、三蔵一行が終点である天竺に着いた時、孫悟空が言った文句「これが天竺か…。すごい地味ですね、法師。」の中国語訳の“这就是天竺吗？不给力啊，老湿。”から生まれた⁷。日本語の単語としては成立せず、また中国語としても当時は使われていないもので、日本アニメの中国語吹き替えという場面で使用される語彙である。その後、また“给力”をはじめとする“日和体(日和体)”(『ギャグマンガ日和』で出てくる表現のことを指す)がトレンド情報を発信する且つ社会影響力のある中国の雑誌《新週刊》(1996年創刊、広東新週刊雑誌社出版)によって2010年度十大文体の一つに選ばれた。10年も経った2020年に“给力哦gèilì(すごい、頑張れ)”を逆読したバージョン“奥力给aolìgěi”(“哦力给”とほぼ同音で意味は完全一致)が中国の国家言語資源監測・研究センターが公布したネット流行語トップ10に入った。動漫由来の語彙にも関わらず、そのかなり強い影響力と浸透力を見せた。

2 日本動漫由来の新語の誕生、定義及びこれまでの先行研究

2.1 日本動漫由来の新語の誕生

動漫という表現が中国で公式に使用されたのは1998年11月に刊行されたアニメ・漫画の情報誌《動漫时代(動漫時代)》(英語の表記“Animation&Comic Time”から“ACT”とも呼ばれている)である。この雑誌の前身は1997年に創刊された日本のポップカルチャーを紹介する《朝日快訊(朝日速報)》の特別欄である。今や動漫というとなすぐに日本のアニメ・漫画が思い浮かぶが、当初の雑誌の英語表記の“Animation&Comic Time”から分かるように、“Animation”はアニメもしくは動画のことを言っているが、“Comic”は明らかに日本の漫画だけを指しているわけではなく、欧米の漫画も含めた言い方である。

中国における日本動漫の歴史を見てみると、1981年に中国の中央テレビで放送された手塚治虫の漫画のアニメ化作品《鉄臂阿童木(鉄腕アトム)》が始まりであり、80年

代から90年代にかけて《聰明的一休(一休さん)》、《美少女战士(美少女戰士セーラー Moon)》、《足球小将(キャプテン翼)》、《灌籃高手(スラムダンク)》、《聖斗士星矢(聖闘士星矢)》など数々の日本アニメが中国で放送され、そのユニークなストーリー性やキャラクター設定などは中国の視聴者を魅了した⁸。

しかし、2000年代に入ってから、中国政府の規制などにより日本のアニメはテレビで放送しなくなり、それと同時にアニメ映画の海賊版への取り締まりも厳しくなった。一方、ADSLや光回線の普及により、インターネットの通信スピードが大幅に向上し、容量の大きいファイルをアップ・ダウンロードすることが可能となり、アニメの無料ダウンロードが現れ始めた。しかしながら、当時、無料ダウンロードできるコンテンツは中国語字幕がないものが多く、興味本位でオリジナル映像に中国語の字幕を入れる字幕組が誕生した⁹。字幕組のことを日本や欧米では「ファンサブ」と呼んでいるが、水面下で活動している組織で、無報酬で主に中国国内で合法的に流通していないテレビアニメやアニメ映画などを独自のルーツで手に入れ、コンテンツに中国語訳を入れたり、作品の中で出てくる用語などについて注釈を入れたりして、動漫ファンである自分たちが楽しむ傍ら、他の動漫愛好者とコミュニティを形成している。このようにインターネットの発展とともに、コンテンツを入手する環境が整え、さらに字幕組の活動により、政府の規制などによりテレビなどでは見られなくなった日本のアニメが広く拡散されることとなった。文化の伝播という視点からすると、日本の動漫が中国国内で根強く浸透していることに対し、字幕組の存在が大きいことに違いない。字幕組は“给力”をはじめとする数々の新語を生み出すことに貢献した。

字幕組による字幕制作の基本的なプロセスは「生肉¹⁰」の入手→セリフの翻訳→翻訳の校閲→字幕の生成→字幕の演出効果調整→完成した字幕と「生肉」との合併の流れである。セリフの翻訳と翻訳の校閲が行われている間、別のチームが一句一句のセリフの時間を計算し、どの時点で字幕を挿入するかを確認しておく。それで校閲チームが校閲を終えると、ひとまず先に字幕ファイルのみを「生肉」入手済みの動漫愛好者向けにアップロードする。それから字幕の演出効果を調整し、最終的に「生肉」と合併し、動漫論壇のBTダウンロードサイトにて公布する(呉橘(2010))¹¹。ボランティアとは言え、その作業プロセスはかなり厳密である。それに加えて、その翻訳というのは単なる日本語を中国語に置き換えるという単純作業ではなかった。彼らは日本語の意味に当てはまる中国語の単語に置き換えて、意味内容の伝達を果たすだけでなく、違和感がある、物足りないといった衝動により、音写や日本語をそのまま輸入することを行っている(湯天軼(2015))。特にアニメの場合、音声によるセリフを翻訳するため、声優の声の特徴や効果なども考慮する必要になってくる。それゆえ、“干巴爹gānbādiē(頑張って)、欧尼酱ōunijiang(お兄ちゃん)、鴨灭蝶yāmiedie(やめて)、红豆泥hóngdòuní(本当に)、搜嘎sōugā(そうか)”など音写した語彙は中国語の中に日本語に対訳できる表現があるにも関わらず、大量に現れた。ほか、動漫コンテンツに出てくる表現だけでなく、動漫関連の専門用語なども日本語から借用した。例えば、声の出演する人のことを日本では「声優」という用語を用い、通常の映画やドラマに出演する俳優ではなく、声のみの出演ということから声優と言う。一方、中国では声だけの演出の場合は“配音演员(アフレコする俳優、吹替える俳

優)”という言い方をしてきたが、近年日本語の声優を中国語発音で“声优(声優)”と呼ぶようになってきている。

このように、日本動漫由来または動漫関連の新語は、80年代、90年代に大量に入って来たテレビアニメ、アニメ映画の海賊版、ネットで無料ダウンロードできるコンテンツと動漫愛好者のコミュニティなどにより誕生したものである。これらの誕生に当たっては、中国語の中の語彙だけではカバーしきれなくなり、または固有語彙で対訳するのに適さないことが考えられる。

2.2 日本動漫由来の新語の定義と収集・調査方法

前節で述べたように、日本動漫由来と言え、動漫作品で出現するものに限らず、動漫愛好者が使用している言葉や動漫関連の専門用語も含まれる。また、動漫の中で使用される際、日中同形語であっても、中国語の中で日本語の意味で使われる場合、新語として取り扱う。

本稿は以下の三種を日本動漫由来の新語とする。

(1)動漫作品のセリフなどから出てくるもしくはキャラクターを象徴する語彙

例：“给力(すごい、役に立つ、頑張る)”、“素敌(素敵)”、“吐槽(愚痴る、批判する)”、“天然(天然)”、“萌(萌え)”、“腹黑(腹黒い)”、“美魔女(美魔女)”、“御姐(御姉さん)”、“恶趣味(悪趣味)”、“壁咚(壁ドン)”など。

(2)動漫愛好者の電子掲示版などコミュニティで使用される語彙

例：“制服控(制服マニア)”、“耽美(耽美)”、“黑化(キャラクターが暗黒面に落ちること)”、“CP(“coupling”の略語)”など。

(3)動漫関連の専門用語

例：“声优(声優)”、“监督(監督)”、“OVA(“original video animation”の略語)”、“同人女(腐女子)”など。

これらの新語の大多数は現時点で、中国における代表的な辞書（中国社会科学院言語研究所辞典編集室編 2016年《現代汉语词典》(第7版)、商務印書館)にも収録されておらず、また多メディア時代かつ数多くの日本の動漫作品が中国へ入っていく背景の下で、どの動漫から由来しているということを証明することは非常に難しい点がある。それゆえ、動漫由来の新語の収集に当たって、本稿は新語の由来が動漫からか、それともドラマ・映画・バラエティ番組や小説などからかが不明瞭の場合は、本稿で言う新語として取り扱うことを避け、主に動漫愛好者の電子掲示板などのコミュニティを利用し、収集する。例えば、意識+音訳の新語“壁咚(壁ドン)”は今や日本の恋愛ドラマでしばしば出てくる男性が女性を壁際に追い詰めて、手を壁にドンと突き迫る行為のことを指す。その行為自体は1970年代の少女漫画の定番シーンとして存

在していたと言われているが、2014年に上映された少女漫画『L♥DK』(エルディーケー)(講談社の『別冊フレンド』の2009年3月号から2017年9月号まで連載)の映画版によって2014ユーキャン新語・流行語大賞に選ばれ、広く知られた。ほか、“腹黑(腹黒い)”のような従来からある語彙で、動漫画を経由して借用されたわけではないが、動漫画によってヒットしたもしくは広く知られたものも新語として取り扱う。

なお、本稿は現代中国語における新語の受容状況の考察においては、カテゴリー別で収録数が多くてデータの更新も速い北京言語大学が開発した電子コーパスである現代中国語データベース(以下、略称の「BCC」を用いる)を活用することにする。

2.3 これまでの先行研究

中国における日本語からの借用語に関する研究は20世紀初期まで遡ることができるが、1950年代に入ってから盛んになった。そのうち、高名凱・劉正瑛(1958)、王力(1980)、沈国威(1994)は各分野に使用されている日本語由来の語彙をそれぞれ458語、78語、102語を取り上げ、主にこれらの借用語を日本製漢語なのか、中国語の古典語を借用したものなのか、意識なのかなどによって、分類を行った(黄麗媛(2009))。ほか、陳力衛(2001、2012)は和製漢語の形成や中国語との関係などを論じた。

なお、2000年代後半から日本動漫画由来の新語の影響力と受容主体の幅が拡大するにつれ、日本動漫画由来の新語の研究に注目が集まり始めた。その研究成果の多くは、個別の語彙について、その意味、形成、文法的機能、語用などについて考察を行った。例えば、潘瑞春(2008)の<“宅女”试析(“宅女(オタク女子)”に関する研究)>、張佳慧・朱蓓蓓・楊陽(2009)の<网络新词“萌”的语言学分析(ネット新語“萌(萌え)”に関する言語学的分析)>、秦嶺(2010)の<说“的说”(“的说(です)”について)>、蒋超迪(2013)の<浅论日本动漫元素“腹黑”的语义极其特点(日本动漫元素“腹黑(腹黒い)”の意味及び特徴)>、張怡春(2019)の<流行词“吐槽”语义泛化解析(流行語“吐槽(愚痴る、批判する)”の意味拡張について)>などがある。一方、個別の語彙や表現ではなく、日本動漫画由来の新語の中から代表的なものを一定数取り上げ、意味や使用例などを紹介している研究も見られる(楊蕾(2011)、韓雯(2012)、胥俊(2012)、韓雪(2015)など)。

これらの先行研究は、多くは哲学、政治、経済など様々な分野における日本語由来の語彙に関するもので、具体的な範囲や分野に限定していない。それに、個別の語彙の考察・分析に留まるものが多く、動漫画由来の新語のタイプや全体像を把握するのに不十分である。

本稿はこれまでの先行研究を踏まえ、日本動漫画由来の新語に関して、言語学的観点から現代中国語における日本語由来の新語の形態的变化や意味的变化を分析すると同時に、電子コーパスのBCCを利用し、これら新語の受容状況も考察する。

3 日本動漫画由来の新語の分類及び受容状況

3.1 日本動漫画由来の新語の分類

従来は日本語からの借用語の分類に関して、漢字の方面から着手し、中国語の漢

字の形式だけを使って造った語彙なのか、由来は中国語の古典語なのか、中国語にはない和製漢字を使った語彙なのかによって分類することが多く見られる（王雯（2010））。そのうち、動漫もしくは日本の動漫を限定した新語の分類はさらに少ないが、動漫由来の語彙について比較的全面的に取りまとめている李艶（2011）の分類を見てみよう。李氏は動漫言語を日本語からの借用語と香港・台湾の方言から来た語彙に分け、日本語からの借用語を借形詞と音訳詞に下位分類し、さらに借形詞を日本語漢字詞、回帰詞、和製漢字詞、ローマ字詞に、音訳詞を日本語の音訳詞を音訳したものと日本語を音訳したものに分けている。ここで、李氏は香港・台湾の方言由来のものを日本語由来の新語と同位分類しているが、香港・台湾から誕生した新語の源はほとんどが日本動漫であるため、分類に緻密性が欠けていると本稿は考える。ほか、音訳でも意識でもなく、日本語をそのままもしくは形式を変えて取り入れたものなどに関して分類に反映されていない。

これらの先行研究を踏まえ、本稿は動漫愛好者の電子掲示板などのコミュニティを利用し収集した47語を、日本動漫由来の新語が現代中国語に借用された方法に焦点を当て、2.2節で述べた日本動漫由来の新語の定義に基づいて、8つのタイプ—半和製語、日本漢語をそのまま借用したもの、一部の漢字や仮名を切り捨てたもの、音訳したもの、意識したもの、一部のみ音訳もしくは意識したもの、日本語の発音をローマ字で表記したもの、頭字語に分ける。本稿では分類を挙げるのみで、より詳細な検討は別稿で行う。

3.1.1 半和製語

(1)中日同形であるが、品詞性や意味が異なるもしくは意味が変化したもの。

例：“天然(天然だ)”、“王道(王道)”、“谜(謎)”、
“百合(女性同士の愛情や恋愛)”など

(2)もともと中国語（古典語や方言も含む）にある語彙・表現であるが、動漫によって新たな意味が付与されたもしくはヒットしたもの。

例：“御宅(オタク)”、“神隠(神隠し)”、
“给力(すごい、役に立つ、頑張る)”、“吐槽(愚痴る、批判する)”、
“废柴(ダメ人間)”など。

3.1.2 日本漢語をそのまま借用したもの

借用された際に、日本語の漢語の形式と意味を変えずに、そのまま取り入れたものの。

例：“声优(声優)”、“耽美(耽美)”、“御姐(御姉さん)”、“素敌(素敵)”、
“残念(残念)”、“暴走(暴走)”、“崩坏(崩壊する)”、“口癖(口癖)”、
“正太(正太)”、“同人(同人)”、“恶趣味(恶趣味)”、“干物女(干物女)”、
“美魔女(美魔女)”など。

3.1.3 一部の漢字や仮名を切り捨てたもの

日本語から借用された際、一部の漢字や仮名を切り捨てたもの。

例：“腐女(腐女子)”、“腹黑(腹黒い)”、“萌(萌え)”など。

3.1.4 音訳したもの

(1)中国語にない語彙・表現について日本語の音を漢字に当てたもの。

例：“萝莉(ロリータ)”、“妹抖(メイド)”、“抖S(ドS)”、“抖M(ドM)”など。

(2)中国語に対応可能な語彙・表現があるにも関わらず、日本語の音を漢字に当てたもの。

例：“捏它(ネタ)”、“满赛(バンザイ)”、“赛高(最高)”、“控(接尾辞の「～コン」)”など。

3.1.5 意識したもの

主に動漫画に出場するキャラクターや人物の特徴を指している語彙・表現。

例：“黒化(キャラクターが暗黒面に落ちること)”、“傲娇(普段はツンとしているものの、思いを寄せた人と二人きりになると、デレっとすること或いはそうした人を指す)”、“软妹(子)(ゆるふわ系女子)”、“攻(加虐嗜好が行き過ぎていること、またはそのような言動が日常的に見られる人のこと)”、“受(“攻”の対義語で根っから被虐嗜好の人のこと)”など。

3.1.6 一部のみ音訳もしくは意識したもの

日本語から借用された際、一部のみ音訳もしくは意識したもの。

例：“天然呆(天然ボケ)”、“壁咚(壁ドン)”など。

3.1.7 日本語の発音をローマ字で表記したもの

日本語漢字を借用するのではなく、音訳・意識もせず、日本語の発音そのものをローマ字で表記したもの。

例：“sama(「さん」の尊敬語「様」)”、“kuso(くそ)”、“otaku(オタク)”、“H(エッチ)”など。

3.1.8 頭字語

日本語の中にある英語由来の語彙を音訳したものの略語。

例：“OVA(original video animation)”、“CP(coupling)”、“OP(opening)”など。

3.2 受容状況

日本の動漫画文化はもはや中国と日本の若者を二次元の世界で一つに結び付け、文化交流を促進する架け橋となっている。そして、その動漫画により誕生した言葉の一部は

その強い造語力と高い生産性をもって、中国語の中で自分の居場所を得る。これまで数々の日本語由来の新語が中国語の中で定着し、借用語と認識できないくらい溶け込んでいる。それでは、日本動漫画由来の新語はどのような形で、どのような品詞性をもって、どのような意味で中国語の中で受容されているか代表的な新語を通じて、覗いて見てみよう。

3.2.1 “声优”

“声优”は日本語の「声優」の形式、品詞性、意味をそのまま受け入れた語彙で、映像作品や音声作品に声のみで出演する俳優のことを言う。中国語の中では、アニメや洋画に吹き込みをする人のことを従来から“配音演员”と呼んでいたが、近年アニメや映画に声を吹き込む仕事をしている人に対する認識が変わり始めた。特に2001年に日本で上映された宮崎駿の作品『千と千尋の神隠し』が2019年に中国国内で上映し、声優の問題が注目を浴びることとなった。多くのジブリファンは海賊版などを通じて、該当映画の台湾版の吹き替えに馴染んでいて、中国大陸で上映された中国大陸の俳優たちの声に違和感を持った。日本では1960年代以降声優が一躍スターになり、注目を集め始めた中、中国の声優はまだまだ地位が低く、表舞台にはほとんど姿を見せない状況が続いているが、近年世界最大級のACGイベント中国国際動漫節（CICAF）だけでなく、大学などで行われる吹き替えコンテストによって、空前の声優ブームが起きている。

BCC上の“声优”の分布状況を見ると、ウェイボーなどを含む多領域で900例以上、文学0例、新聞報道2例となっている¹²。

- (1)某互联网机构一项调查发现，作为跟随互联网发展而成长起来的一代人，“95后”普遍愿意从事由互联网催生的各种新职业，而他们最向往的是主播、网红、声优、化妆师等。（BCC:《人民日报》2016年12月16日）

（あるインターネット機関の調査によると、インターネットの発展に伴って成長した世代として、「95後」はインターネットによって生み出された様々な新しい職業に従事したいと考えているが、彼らが最も憧れているのはネット番組パーソナリティー、インフルエンサー、声優、メイキャップアーティストなどである。）

- (2)讲太快了!!!! 过于冷静的声音，你果然不适合做声优! (BCC:ウェイボー)
（早すぎる!それに声も冷静すぎる。あなたはやはり声優には向いていません!）

このように、新語の受け入れは単なる言語面の交流に止まらず、自国の産業の発展と他国との産業間交流などにも影響を及ぼす。

3.2.2 “萌”

日本語の中の「萌え」は本来動詞の語幹であるが、用法が拡張し、名詞・形容動詞

として、なお感動詞として用いられる。「萌え」はACG用語として、主に動漫画などにおけるキャラクター・人物などへの強い愛着心・情熱・欲望などの気持ちをいう俗語である。中国語に受容された際は、仮名を切り捨て、漢字一字のみとなり、人や物の可愛い状態を表現する時に使われるようになってきている。例えば、パンダの動きや人の話し方など、その使用範囲は幅広い。「萌え」が世界で人気を集めている中で、中国語の中でも素晴らしい造語力と高い生産性を見せつけた。中国語の中における“萌”は下記で示すように、ほかの品詞との組み合わせのバリエーションが豊富である。

- “萌” + 名 詞：“萌宝(可愛いベビー)”、“萌物(可愛い物)”、
“萌点(萌えのポイント・ツボ)”、
“最萌身高差(一番キュンとする身長差)”
名 詞 + “萌”：“反差萌(ギャップ萌え)”
動 詞 + “萌”：“卖萌(萌えを売りにする、かわい子ぶる)”
形容詞 + “萌”：“呆萌(バカっぽく可愛い)”
程度副詞 + “萌”：“很萌(とても可愛い)”
“萌” + 補 語：“萌翻(超可愛い)”

BCC上の分布状況は、ウェイボーなどを含む多領域で1万6千例以上、文学0例、新聞報道350例以上となっている。

- (3)它一身雪白，身材短小精悍，跟“大白”最大的相似之处是“具有人类感情”，看上去十分“呆萌”。(BCC:《人民日报》海外版2015年7月2日)
(あれは真っ白で、小柄で精悍で、「大白」と最も似ているのは「人間の感情を持っている」ことで、非常に「可愛く」見える。)

- (4)这孩子讲话的口气和笑起来的样子都可爱死了，直击萌点。(BCC:ウェイボー)
(この子の話しぶりも笑い方もとても可愛く、萌えのツボを直撃する。)

上記の幅広い組み合わせから分かるように“萌”の中国語における造語力と生産性は高く、形容詞、名詞としての用法が見られる。固有の語彙“可爱”と日本語の「可愛い」を音訳した“卡哇伊”と比べると単なる外見的なものや一時的な可愛らしさを行っているのではなく、人に可愛らしく思わせるある属性や状態によって芽生える感情を表現する時に使われる。その影響力と浸透力は非常に強いと言えるだろう。

3.2.3 “傲娇”

“傲娇”は日本語表現「ツンデレ」に対応した訳語であり、日本の電子掲示板で生まれた用語で、後に動漫画用語として使われるようになった。日本語の原語は「ツンツン+デレデレ」で、中訳した時もこの原語の構造に合わせて、“傲慢(傲慢)+娇羞(なまめかしく感じられる女の恥じらいの様子)”と訳している。動漫画の世界では「普段はツンとしているものの、思いを寄せた人と二人きりになると、デレっとすること或

いはそうなる人」を指して言う。しかし、この語彙が一般的に使用されるようになってから、意味にズレが見える。下記の実例を見てみよう。

(5)等我洗洗刷刷搞完，看见太子还在航空箱内不吵不闹，安安静静的待着～在外面喊他，理都不理你～还一副黑傲娇的样子。 (BCC: ウェイボー)

(私が洗い物を終え、太子が騒ぐことなくまだ航空箱の中で静かに待っているのを見て、外から彼を呼んだら、相手にもされなかった。彼は依然として腹黒でツンデレの顔をしていた。)

(6)市场一打开，就像推开一扇新窗户，订单源源不断，拦都拦不住！”两年前，李哲可不敢这么“傲娇”。当时，国内不锈钢产品市场竞争激烈。“光山西就有几十家，生产的東西都差不多，一度很紧张，常常为找市场出路着急得睡不着觉。

(BCC: 《人民日報》2017年8月10日)

(「市場が開くと、新しい窓を開けたように、注文が絶えず、止められない！」二年前の李哲はこんなに「傲慢」する勇気がなかった。当時、国内のステンレス製品市場は競争が激しかった。「山西省だけでも数十軒あり、生産されたものは大差なく、商売は一時ピンチに陥って、市場の開拓に焦って眠れなかったことが多かった。』)

例文(5)を見ると、“傲娇”をもって本来動漫画用語として使われる「ツンツン」してぶっさら棒な態度を取っているものの、「デレデレ」して好意的な態度をとる一面もあるという「太子」の様子もしくはそういう人であることを表していることが分かる。一方、例文(6)は李哲が「ツンツン」と「デレデレ」の二つの性質を持っていることを言っているのではなく、文脈から「二年前は注文がなくしょんぼりしていた李哲が、二年後注文が殺到し始め、商売がよくなると、やっと傲慢できるようになった」ということを読み取れる。“傲娇”が動漫画の世界だけでなく、動漫画のことをよく知らない人などが一般的に使われるにつれ、どうやらこの言葉の本来の意味を曲解したようである。もはや本来の意味の“傲慢+娇羞”が片方の“傲慢”しか残っていない。更に考察する必要はあるが、このように新語の使用において、本来の意味とずれた使い方をするのは“傲慢”だけに起きている孤例ではない。BCC上の分布状況は、ウェイボーなどを含む多領域で3916例、文学0例、新聞報道43例となっている。実際使用上意味のズレがどのような割合で起きているかは更なる詳細な分析と統計が必要となる。これに関しては、ここでは論を展開しないことにするが、今後の課題とし、意味のズレかそれとも意味の変化かも念頭において考察を必要がある。

3.2.4 “赛高”

“赛高”は日本語の「最高」を音訳したもので、ACG用語として使われている。日本語の中では名詞、形容動詞として使われ、その意味は次の通りである。

「最高」①地位や高さなどがいちばんたかいこと。②物事の程度が特にいちじるし

いこと。また、そのさま。③物事が最も望ましい状態にあること。この上なくすばらしいこと。また、そのさま。 (『大辞泉』デジタル版より)

動漫画用語としては中国語の中で、しばしば形容詞として②と③の意味で用いられ、中国語の中にはこれに十分対応できる語彙・表現がある。例えば、“最棒”、“最好”、“太好了”、“太棒了”などが挙げられる。しかし、「最高」は音訳という方法を用い、音に字を当てている。これはすでに言語翻訳の意味伝達の範囲を超越していると言えるでしょう。湯天軼(2017)は「字幕という形象,翻訳という享受:中国における日本アニメ字幕組とその翻訳形式について」において、エクリチュールが形象的なものの意味を完全に表しえないことだけでなく、そもそも日本語の声によって表現された台詞にはすでに日本語の身体感覚によるサブカルチャーの世界認識の体系が含まれているため、いわば翻訳不可能なものが多いと指摘している。このような深層的原因より、動漫画由来の新語の中には対訳可能な中国語があるにも関わらず、わざわざ音訳するものが多いことが分かった。

BCC上の分布状況は、ウェイボーなどを含む多領域で900例以上、文学0例、新聞報道0例となっている。分布状況から分かるように、“赛高”のような音訳語は基本動漫画の世界でしか使用しないという特徴も持っている。下記のような使用例が多く見られる。

(7)牙败啊儿童文学赛高...枣糕, 被洗脑了...可爱死了!!!! (BCC:ウェイボー)

(やばい。児童文学最高!しまった。洗脳された。めっちゃ可愛い!)

(8)吉瀬美智子赛高~松田菜菜子满赛~!~\(\geq\triangle\leq)/~不过奇怪没有米仓凉子~

(BCC:ウェイボー)

(吉瀬美智子最高!松田菜々子バンザイ!でも米倉涼子がないのはおかしいね。)

通常例文(7)と(8)の中の「最高」に対し、音訳の“赛高”ではなく、他の中国語表現にする場合は、文脈から見て、例文(7)は“太有意思了”、“太棒了”などが考えられるが、例文(8)は“万岁”、“太棒了”などが考えられる。今後の課題としては、言語学的観点からこれら音訳語の特徴について更に研究する余地がある。

以上のように、現代中国語における日本動漫画由来の新語の分類とその代表的なもの受容状況を考察した結果、日本動漫画由来の新語が後を絶たずに誕生する理由として本稿は二つ挙げられると思う。

理由一：在来の語彙の意味と品詞性ではカバーしきれない或いはカバーできない。

理由二：他人と異なる新しくておしゃれな表現を使おうとする心理が働いている。

4 今後の展望

本稿は日本動漫画由来の新語の分類を行った上、数多くある新語の中で比較的使用頻度が高く且つ一般化されたものを選出し、その受容状況を考察した。日本動漫画由来の

新語はこれからも中日の文化交流が盛んになるにつれ、どんどん増えていき、また入れ替えのスピードも増していくであろう。今後の課題としては、これら新語の受容状況に関してより信憑性がある研究結果を得るためには、より多くの新語に対し、データ分析を行う必要があることと、新語の品詞性変化や意味拡張において、その特徴と規律を明らかにする必要がある。そして、動漫由来の新語を手掛かりに、言語と文化の相互関係や社会における若者文化の立ち位置や若者文化が社会に与える影響など深層的な問題に目を向けるべきである。

注

1. 和製漢語とは日本語の中で形成され、作られた漢語を指す。それを判別する物差しは形態と意味の二つの側面がある。形態からみて漢字の表意性と造語力を生かして、日本語の中で独自に造った、中国本土にない新しい形や組み合わせを和製漢語と呼ぶ（陳力衛（2012：217））。
2. 1903年から辛亥革命勃発の1911年までの毎年の日本留学者数は以下の通りである（李協京・田淵五十生（1997：23-24））。
1903年1,242人；1904年2,557人；1905年約8,000人；1906年約6,000人；1907年6,797人；1908年5,217人；1909年5,266人；1910年3,979人；1911年3,328人。
3. 日本から中国へと言っても、完全に一方的ではなく、日本語が近代中国語からそのまま借用した語彙もある。例えば、“电气(電気)”、“银行(銀行)”、“化学(化学)”、“手风琴(風琴)”など（陳力衛(2012)）。
4. 哲学 61語；経済 47語；政治 39語；法律 39語；文化教育 27語；物理 23語；軍事 23語；社会 17語；心理 17語；文学芸術 12語；医薬 12語；数学 9語；交通 8語；化学 7語；建築 6語；外交 6語；生理 5語；生物 4語；宗教 4語；飲食 2語；日用品 2語；機械 3語；言語 1語；その他 84語。
5. 1980年代以降に生まれた新しい語、または新語義・新用法が生まれた語を新語とする（張黎(2015：31)）。
6. “给力”の語源に関して、一説によると中国の北方方言の中にもともとある表現らしい。それゆえ、今後の課題として、該詞の語源についてはさらに考察が必要である。
7. 第10話「西遊記～旅の終わり～」多くの吹き替え版がある中でもっとも人気を集めたのがcucn201という中国伝媒大学南広学院の4名の在学学部生が吹き替えたバージョンである。
8. 1981年に中国に入ったテレビアニメ『鉄腕アトム』より先に1979年11月に中国の中央テレビで日本東映株式会社が1979年に制作したアニメ映画『龍の子太郎』が放送された。
9. 2001年に誕生した動漫花園字幕組という字幕組が中国国内で一番古い字幕組だと言われている。「極影動漫論壇」による「極影動漫連盟」に「加盟」している「字幕組」だけでも、2011年までは52個で、2013年には204個に達していた（湯天軼(2017：21-23)）。

10. 「生肉」とはテレビから録画され、または正規製品のDVDやBD（ブルーレイディスク）からコピーされて未処理のアニメのことを指す（湯天軼(2015: 102)）。
11. 動漫論壇は中国の字幕組が字幕版を公布するプラットフォームであり、また動漫愛好者のフィードバックをもらう主なルートでもある。BTとはBitTorrent（ビットトレント）の略語で、ブラム・コーエンによって開発された、Peer to Peerを用いたファイル転送用プロトコル及びその通信を行うソフトウェアである。Bit(ビット)+Torrent(急流)から、「急流のように速く(ファイルを)落とせる」という意味を持つ。（フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』2021年12月20日閲覧）
12. ウェイボー（微博・Weibo）は中国最大のSNSで、多くの中国人が商品を購入する際に利用している。

参考文献

- 高名凱・劉正焱1958.《現代汉语外来詞研究》，北京：文字改革出版社。
- 王力1980.《汉语史稿》，北京：中華書局。
- 沈國威1994.『近代日中語彙交流史—新漢語の生成と受容—』，東京：笠間書院。
- 李協京・田淵五十生1997.「中国人の日本留学の百年」、『奈良教育大學紀要.人文・社会科学』第1号46卷,21-35頁。
- 史有為2000.《汉语外来詞》，北京：商務印書館。
- 陳力衛2001.『和製漢語の形成とその展開』，東京：汲古書院。
- 潘瑞春2008.<“宅女”試析>《修辭學習》第2期，78-80，55頁。
- 黃麗媛2009.<汉语新詞中的日語借用詞—以改革開放後的新詞為中心>，東北師範大學碩士學位論文。
- 張佳慧・朱蓓蓓・楊陽2009.<網絡新詞“萌”的語言學分析>《晉城職業技術學院學報》第4期，78-80頁。
- 秦嶺2010.<說“的說”>《語言文字應用》第2期，56-62頁。
- 王雯2010.《異化翻譯視角下日語借詞的研究》，哈爾濱理工大學碩士論文。
- 吳橘2010.<傳播學視角下的國內日本動畫字幕組研究>，中南大學碩士學位論文。
- 李艷2011.《動漫語言研究》，湘潭大學碩士學位論文。
- 楊蕾2011.<國內ACG愛好者網絡語言研究>，《漯河職業技術學院學報》第10卷第6期，120-122頁。
- 陳力衛2012.「和製漢語と中国語」、『比較日本學教育研究センター研究年報』第8号，217-222頁。
- 韓雯2012.<淺析日本動漫对中国網絡語言的影響>，《文學界（理論版）》第12期，90-91頁。
- 胥俊2012.<淺議網絡語言中的日本動漫詞語>，《名作欣賞》第36期，101-102，105頁。
- 蔣超迪・苟坤2013.<淺論日本動漫元素“腹黑”的語義極其特點>，《樂山師範學院學報》第28卷第2期，78-87頁。

- 張黎2015.「中国の新語に於ける日本からの借用語について—メディアの使用状況を中心に—」,『言語文化論叢』第9号, 31-47頁。
- 湯天軼2015.「地平/生活/アポリア :中国における日本サブカルチャー翻訳をめぐって」,『日本学報』34号, 97-107頁。
- 韓雪2015. <浅谈日本动漫对中国网络语言的影响>,《山东农业工程学院学报》第9期, 181-183, 185頁。
- 湯天軼2017.「字幕という形象, 翻訳という享受 :中国における日本アニメ字幕組とその翻訳形式について」,『日本学報』36号, 19-36頁。
- 張怡春2019. <流行词“吐槽”语义泛化解析>,《语言教学与研究》第6期, 101-108頁。